

ネット時代のクラシック

「1000を今度のコンクールで弾くのですが、すぐ上手くなる方法を教えてください。」というようにメールを頂くことがあります。なるべく早く、手間をかけずに曲を弾けるようになりたい、という希望。もしそんな方法があるのならこちらが知りたいくらいですが、私なりに考えるその曲の特徴、構成、留意点、練習方法などをなるべくわかりやすい言葉で書いて返信するようにしています。ほとんどの場合、お礼のメールはおろか、その後どうなったかの報告すらないのは、結果的に手つ取り早く上手になることはできなかったということかもしれません。

ネット社会においては、様々なものがクリック一つで手に入る時代になりました。ひと昔前には、わざわざウィーンの図書館や楽譜店まで出かけて入手した楽譜でさえも、今はインターネットで瞬時に閲覧、プリントアウトが可能です。そして膨大な音源をパスワード一つで聴くことができ、国際コンクールの演奏をリアルタイムで聴取したり、最新結果もすぐわかる、という便利な世の中になりました。

馬車が一番速い乗り物だったモーター時代と比較して、飛行機であつという間に目的地に着いてしまふ現代は、スピードに対する感覚がまったく異なることでしょう。けれど、そんな中であつて「演奏」

という行為は、時間をかけてゆつくりと熟成し、自らを見つめ、作曲家の残してくれた楽譜の向こうにあるものをじっくりと読み解き、弾き手の肉体を通して表現する、というプロセスを抜きにしては実現しない世界です。

時間をかけずに手に入る様々なものがあふれる中で、時間をかけて自らの中に蓄積していくことができるものというのは、なんと貴重なことでしょうか。私たちは、その大切な何かを常に忘れずに、演奏、研究、教育に心を向けていくべきではないでしょうか。

大学では「ピアノ教育論」という授業も担当しており、様々な教育システムや音楽メソッドについて視野を広げ、レッスン分析を通じて思考力育成の手法について研究しています。しかし学生一人一人の異なる個性を前にしたとき、「正解」というものはありません。花が開く時期も、大きく伸びる過程も各々違うからです。成長に寄り添い、ともに音楽を奏で、音楽を通じて互いを理解しあい、また自らも磨きながら、一度しかない人生がより豊かなものになるように、大きな輪を広げていくことを目指していきたいと思つています。

文・久元祐子先生

東京藝術大学、大学院修了。国立音楽大学教授、日本人で唯一のパーセンドルファー・アーティスト。
当協会評議員

